

平成29年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第3回全体会
開催日時	平成30年2月6日(火) 午前10時から12時まで
開催場所	葛飾区役所新館5階 庁議室
出席者	【委員14人】 大石会長、小松原第2分科会長、堀切委員、大山委員、折登委員、西山委員、浅野委員、望月委員、安藤委員、石井委員、上村委員、河角委員、谷本委員、千田委員 【区側】 事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員6人)、各所管課長他

会議概要

1 開会

2 答申内容をふまえた取組内容報告

(各所管課より取組内容報告後、質疑応答)

(1) 第一分科会

<エイズ・性感染症対策>

- A委員 : 区には、検討・研究を継続し、今後も前向きに取り組んでいただきたい。
- B委員 : 中学校長会等との連携により、中学校からの正しい知識の啓発に取り組んでいただきたい。
- C委員 : 現時点で、メール相談窓口を開設している自治体はあるのか。また、費用対効果の観点から考えると、開設は難しいものなのか。
- 保健予防課 : 特別区内で開設している自治体はないが、開設の可否を研究している自治体はあると聞いている。開設に伴う費用対効果については、今後研究をしていきたい。

<ごみ減量・清掃フェアかつしか>

- D委員 : 今年度のフェアにおいて来場者数が過去最高に達したことは評価できる。今年度に行った工夫のうち、集客効果が高かつ

たとえる取組みはあったか。また、子どもの来場は増えているのか。さらに、5,400人の来場があったことで、安全対策等の運営上の問題はなかったか。

リサイクル清掃課 : アイリスループ車内へのポスター掲示や毎週金曜日に配信している葛飾広報パブリックテレビ（KKPTV）への出演によるPR、自治町会の掲示板等での周知は、集客効果があったと考えている。また、古紙で植木鉢を作る等の子ども向けのイベントを実施しているため、若干子どもの来場数は増えているように感じる。さらに、フェア会場の敷地は広いため、来場者数の増加に伴う混乱はなかった。

E委員 : 今年度のフェアについては、自治町会の掲示板等にポスターが掲示されているのを実際に見た。来場者が過去最高となったのは、これらの周知の効果と所管課の努力であり、評価できる。

F委員 : 生ごみの水切りは、清掃工場での燃焼効率を良くし、無駄なコストを掛けないためにも重要である。今後は、水切りの重要性を一層周知していただきたい。

G委員 : 生ごみを水切りして排出することで、一人あたりの焼却経費が3万円程抑制できるため、地元の自治町会において、地域ぐるみで水切りの重要性をPRした。

H委員 : 水切りのみならず、ごみ出しのルールもしっかりと啓発していただきたい。

C委員 : 葛飾清掃工場が新たに企画した「化学実験教室」と「えんとつ総選挙」とはどのような内容なのか。

リサイクル清掃課 : 「化学実験教室」は、清掃工場内での検査分析に実際に用いている薬品を使い、発光実験や果物の香りを作製する実験を行った。また、「えんとつ総選挙」では、23区内の清掃工場の煙突の写真に投票していただき、投票の結果、葛飾清掃工場が人気第1位となった。

<かつしか少年キャンプ>

I委員 : 自治町会においても、単位子ども会に参加してもらえるよう工夫をしているが、少子化や保護者の仕事の都合により活動に参加ができない家庭が多い。このような時代の流れを踏まえ、子どもの積極的な参加が期待できる新規事業の展開も検討してはどうか。

地域教育課 : 単位子ども会を取り巻く状況の変化を踏まえ、子ども会の活動自体も、自治町会単位のみならず、集合住宅単位、PTA単位での活動へと変化している。区としても、単位子ども会の活動のあり方を含め、子ども会育成会連合会と議論していきたい。

H委員 : 新たに実施したアンケートは、どのような結果だったのか。

地域教育課 : 今年度の参加者アンケートは、91名中90名から回答を得た。ジュニアリーダーにぜひなりたい、なりたいと回答した子どもは40%であり、前年度の46.4%を下回った。また、ジュニアリーダーになりたくないという回答した子どもは25.6%であり、前年度の24.6%を上回った。なりたくないという回答した主な理由としては、「仕事が大変そう」が43.1%、「他にやりたいことがある」が21.6%、その他、「講習会に参加するのが大変そう」や「勉強・クラブ活動をやりたい」といった内容の回答があった。キャンプ期間中忙しく動き回り、夜まで打合せを行っているジュニアリーダーの姿を見て、自分にできるのだろうかと不安に思った参加者が多かったのではないかと考えている。

また、ジュニアリーダーを対象として実施したアンケートでは、参加した子どもの笑顔にやりがいを感じたという旨の回答をしたジュニアリーダーが8割程いた。

(2) 第二分科会

<介護予防・生活支援サービス事業>

J委員 : 高齢者の引きこもりは社会問題であり、今後も、介護予防に注力をしていただきたい。また、新規に立ち上げるB型サービスの実施主体に補助金を交付する考えとのことだが、補助金の交付によりNPO等の活動が促進されるため、賛成である。さらに、健康寿命の延伸のため、高齢者が生きがいを感じ、達成感や充実感を味わえるような事業やスポーツ関連事業を展開していただきたい。

D委員 : 29年10月から青戸平和公園で実施している「うんどう教室」の参加実績はどの程度か。また、B型サービス提供に関わる補助金の交付にあたっては、適正な交付内容を要望する。目標を設定し、サービスを評価する仕組みを是非取り入れていただきたい。

介護予防担当課：青戸平和公園では、月1回「うんどう教室」を開催しており、30年1月までの4回で延べ参加者数は115人、1回あたり30人弱が参加している。他の場所で開催している「うんどう教室」の参加実績と同程度である。また、B型サービスに関わる補助金については、実施回数及び参加者数によって補助額を変動させる仕組みを考えており、現在、補助内容等の詳細を詰めているところである。

K委員：地域の自主的な活動としてB型サービスを継続していくためには、従事するスタッフにも継続的に関わってもらうことが必要である。今後、スタッフに対する支援についても検討していただきたい。

＜ひとり親家庭自立支援（就労支援）＞

I委員：29年12月9日に開催した就労支援講座の参加者数と保育の利用実績はどの程度か。

子育て支援課：参加者数は6名であり、保育を利用された方は1名であった。

J委員：就労支援対象者を児童扶養手当受給者の約8割とした根拠は何か。

子育て支援課：全国のひとり親家庭の平均年収が243万円であることを参考に、本区の児童扶養手当受給者の収入ベースで年収約300万円以下の世帯を就労支援対象としたところ、全体の約8割となった。

D委員：支援対象者を明確にしたことは評価できる。就労支援講座の参加者は6名とのことだが、今後、講座名称や内容、事前の予約方法等を改善しながら実施をしていただきたい。

子育て支援課：予約方法や周知方法等を今後検討していきたい。

C委員：就労支援講座ではどのような内容を実施したのか。

子育て支援課：資格取得にテーマを絞って実施した。30年1月からの本格的な求職活動を見据えて、求人情報や無料の資格講座等を紹介した。

＜葛飾区認定製品販売会事業＞

L委員：来年度は、29年度に新たに開催した亀有地区センターでの反省を踏まえ、PRを強化していただきたい。

F委員：インターネットを活用したPRのみならず、高齢者を対象とした周知媒体も検討していただきたい。

- 商工振興課 : 広報紙を見て来場したという方や近隣の小・中学校へ配布したチラシを見て子どもとともに来場したという保護者もいらっしゃる。今後は、紙媒体での周知とSNSを含めたインターネットでの周知のバランスを取りながらPRを進めていきたい。
- I 委員 : 区としても、出店者連絡会における開催内容や日時、集客方法等の検討に積極的に関わることが必要なのではないかと。
- 商工振興課 : 出店者連絡会では、区も検討に加わり、協力して当日の運営を行っている。30年2月4日に開催した本事業は第10回という節目の回であったため、出店者連絡会において検討し、新たに風船を配付する工夫を行った。今後も、集客効果が見込める工夫を出店者連絡会において検討していきたい。
- F 委員 : 広報紙を見ても、当日にどのような品物が販売されているのかが分かりづらいため、工夫をしてはどうか。
- 商工振興課 : 広報紙で簡単に品物を紹介しているが、今後、品物をイメージしやすい表現等工夫をしてPRをしていきたい。

3 平成30年度行政評価委員会の運営方針

(事務局より、運営方針・29年度行政評価委員会委員対象アンケートの実施結果について説明)

4 事務連絡

5 閉会